

令和５年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校					
	○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校					
	○安心・安全な学校					
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成 状況	
【学習指導】 授業中の生徒のタブレット使用に関しては教員や教科、学年によって使用頻度にばらつきが出てしまったようなので、全ての教科でタブレットをどの場面で活用するのかを明確にした上での確実な実施。また、教員個人のタブレット活用や利用技術についても使用頻度に差があったので、相互授業参観などを通してＩＣＴ利用技術に関しては情報を共有し、利用技術の更なる向上を図る必要がある。次に「単元別指導と評価の計画」を意識した観点別評価の適正な運用については実施初年度ということもあって、計画に関しても指導に関しても評価に関しても手探りでの実施であったので、より一層全職員の共通理解の下、教員の授業改善、生徒の学習改善につながる運用を目指す。朝ドリルを実施したり、放課後や長期休業中の時間を利用して指導する機会を設け、フォローアップに努めることはできたが、生徒自身の学習に対する意識の変容までは困難な現状にある。		生徒の個人的資質の向上	○基本的生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上		B	
			○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上			
			○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による、新時代に求められる資質・能力の向上			
【進路指導】 まず、就職関係では企業やハローワークと綿密な情報交換による連携が図れたのでその結果、会社見学と学校紹介による内定を100%実現できた。また、求人票閲覧システム「Handy進路指導室」の活用により、生徒及び保護者にも充分な情報提供が可能となった。進学関係では、3学年の職員の尽力によりほぼ全ての生徒がオープンキャンパスに参加することができた。次年度への課題としては、進学指導に力を入れる時期と、会社見学から就職先決定に至る時期が重複して、進学指導にやや不十分な点があった点、就職・進学の資料及び電子データ整理を計画的に進められなかった点、就職活動における企業見学の数の3点である。		商業に関する専門的知識の育成	○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善		B	
			○タブレット端末や電子黒板等、ＩＣＴ機器を有効に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現			
			○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成			
【生徒指導】 校内のルールやマナーが浸透し、規範意識の高い生徒の割合が増えてきたことから、全体的に落ち着いた雰囲気や学校生活を送ることができている。交通事故発生件数の増加、交通マナーにそぐわない自転車、ゴミのポイ捨てなどのモラルの欠如といった校外の部分では改善すべき点みられたので、基本的生活習慣、服装容姿、ネットモラルなどその必要性を説きながら引き続き様々な場面で根気強く指導していきたい。また、交通マナー、安全運転、公共マナーについて指導する機会を増やし、学校内外で真に社会性のある生徒を育てたい。多様性を重視する社会状況を真摯に受け止めて、旧来の指導方法を見直す謙虚な姿勢を全職員がもつ必要性を感じる。		保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保		B	
			○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100%			
			○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実			
【特別活動】 学校行事に関しては、感染対策を実施しながら昨年度より一歩進んだ形で実施し、文化祭については、保護者のみの招待ではあったが公開することができた。生徒会役員・実行委員が活躍し、生徒の意向が十分に生かされた行事運営ができた。また、生徒総会に向けての意見集約、行事後の振り返り等を通して各々の生徒が生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。一方、次年度への課題としては、文化祭等の準備のためのHRが十分確保できなかったため、行事内容の精選や文化祭までの準備期間の検討と、部活動運営を円滑化を念頭に置いた部活動教の精査、顧問編成の検討、部室施錠の徹底をするために、顧問・生徒が連絡を密にする必要性が挙げられる。		生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上		B	
			○PDCAサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上および教師の授業改善「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合90%以上			
			○組織マネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善			
【特別活動】 学校行事に関しては、感染対策を実施しながら昨年度より一歩進んだ形で実施し、文化祭については、保護者のみの招待ではあったが公開することができた。生徒会役員・実行委員が活躍し、生徒の意向が十分に生かされた行事運営ができた。また、生徒総会に向けての意見集約、行事後の振り返り等を通して各々の生徒が生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。一方、次年度への課題としては、文化祭等の準備のためのHRが十分確保できなかったため、行事内容の精選や文化祭までの準備期間の検討と、部活動運営を円滑化を念頭に置いた部活動教の精査、顧問編成の検討、部室施錠の徹底をするために、顧問・生徒が連絡を密にする必要性が挙げられる。		安心・安全な学校づくり	○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり		B	
			○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応			
			○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応			
【特別活動】 学校行事に関しては、感染対策を実施しながら昨年度より一歩進んだ形で実施し、文化祭については、保護者のみの招待ではあったが公開することができた。生徒会役員・実行委員が活躍し、生徒の意向が十分に生かされた行事運営ができた。また、生徒総会に向けての意見集約、行事後の振り返り等を通して各々の生徒が生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。一方、次年度への課題としては、文化祭等の準備のためのHRが十分確保できなかったため、行事内容の精選や文化祭までの準備期間の検討と、部活動運営を円滑化を念頭に置いた部活動教の精査、顧問編成の検討、部室施錠の徹底をするために、顧問・生徒が連絡を密にする必要性が挙げられる。		働き方改革の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し		B	
			○校内における情報の共有化の推進			
			○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進			
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題	
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校		B	B	リーダーとしての資質の向上を目指して、自分たちで計画、行動ができるよう に指導する。様々な災害や事故が想定されるので、危機管理マニュアルを随 時見直す。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	○次の6項目を推進することにより、鬼怒商業高校生としての誇りをもちつつ、 将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人財」の育成に努める。 1 生徒の個人的資質の向上に努める。 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに 努める。 5 安心・安全な学校づくりに努める。 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。		B		「人財」育成のため、各教科、各学科の主任によって教育課程編成委員会を組 織し、生徒たちにとってよりよい教育課程を作成する。また、結城一高との連 携を見据えて、どのような連携が可能かを検討する。
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・）ポリシー	○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒 ○簿記・情報処理などの資格や商業の学びを生かして進学・就職したい生徒 ○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒 ○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒		B		商業科、情報ビジネス科の特色、魅力を中学生および地域の方々に発信する方 法を工夫する。特色選抜も活用し、本校の求める生徒を知らせる。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	国語の基礎的な知識・技能を習得するとともに、思考力や判断力を育成する。	定期テストや単元テストに加え、ノートや課題集等の点検を行い、学習内容の理解度を評価する。	A	B	【達成状況】 ○ノートや課題集の点検を単元ごとに行って、学習状況や学習内容の理解度を把握し、適切に評価することができた。 ○グループワークやペアワークを取り入れて互いに学び合う機会を設けた。生徒達にも積極的に学ぶ姿勢が見られた。 ○生徒の理解の向上のために、単元終了後にGooglefoamを利用して振り返り学習を行った。また、タブレットを用いてテーマに関する調べ学習を行った。 ○6月の漢字検定では、3級が8人中5人、準2級が3人中0人、2級が3人中0人、という結果だった。
			文章を論理を正しく読み取ったり、わかりやすく説明したり、情報を適切に取捨選択したりする力を身に付けさせられるよう指導する。	B		
		様々な状況に応じて書いたり、話したり、聞いたりすることにより、表現力を育成する。	感想文や実用的な文等章を書く授業や、スピーチや話し合い等の授業を通して、自分の考えを構築し、表現する機会を設ける。	B		
		自ら考え、主体的に学習する態度を養う。	ICTを活用し自己の学習を振り返ったり、学びを深めたりする助けとする。	B		
			積極的に漢字検定を受検する生徒を増やし、合格に向けて援助する。また、自治体が主催する俳句や短歌等の賞に応募する。	B		
	社会	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	ICT機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題を学習課題として設定する。	A	A	【達成状況】 ○グーグルスライドを使った発表（プレゼン）やレポート課題など工夫することすることができた。 ○授業内容の確認やワークシートなど提出においては、タブレット等を活用し、個々の生徒の評価をすることができた。 【次年度への課題】 ○授業内容の精選（経済分野がほとんど扱えなかった。） ○地域の課題を取り上げる際は、「フィールドワーク」をおこない、生徒に実感を持たせたい。 ○外部機関との連携
			対話型の授業を展開し、グループワークを単元ごとに取り入れる。また、発問を工夫したり、パフォーマンス課題を設定したりするよう心がける。	A		
		社会の形成者となるための資質を養う。	様々な資料を利用し、外部機関との連携を図りながら、成年年齢の引き下げにより生じる様々な問題や責任について考えさせ、知識を習得させる。	B		
		基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやワークシートのチェックを通して、個々の生徒の能力に応じた、きめ細かい指導を行う。	A		
	数学	生徒の学習意欲・基礎学力を向上させる。	基礎基本的な学習内容を理解したあとの問題演習の時間を十分に確保することで知識の定着を図る。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。課題等を活用し家庭学習の機会を確保する。	B	B	【達成状況】 ○活用できる範囲でICT機器を積極的に活用することができた。 ○机間指導の中で、数学な苦手な生徒に対して配慮をして授業進度などを調節することで学力格差に柔軟に対応することができた。 【次年度への課題】 ○ICT機器の活用について使用頻度を上げるために尽力してきたが、更に効果的かつ効率的に活用していくためにICT機器の授業における汎用性について学ばなければならないと感じた。 ○数学の苦手な生徒に対してICT機器なども活用することで配慮することはできたが、学力格差を埋めるという根本的な問題解決には至っていないと感じた。次年度はより具体的な対策を考えていきたい。
			授業中に発問や机間指導を行い、苦手な生徒にはその都度個別に指導する。ワークやプリントの提出状況から生徒の理解度を確認する。適宜小テストを実施し、単元ごとの理解度を把握する。	A		
		主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	問題演習の際に話し合い活動を取り入れ、意見を交流する機会を作る。また考えを黒板に記述させ発表させたり、その解答について考察する時間を設ける。	B		
	理科	基礎的な学力の定着を図る。	中学での内容にもさかのぼって復習しながら、理科に関する基本的な法則・公式を理解し、一般常識にもつながる基礎的知識をしっかりと身につけさせる。	B	B	【達成状況】 ○教科書の内容だけにとらわれず、日常生活の中で身近に感じられる科学的事象を多く取り上げながら、「理科は難しい」といった中学時代からの苦手意識の払拭を心がけた。 ○パワーポイントによる授業教材やビデオ教材に沿った自作プリントや等を作成し、生徒が授業に取り組みやすいように配慮し、基本的な知識の定着を促した。 ○質問に対する挙手誘導や前に出て問題を解かせる雰囲気を作るなど、生徒が主体的に学習するように工夫をした。 ○ビーズを使って、DNAモデルを作成したり、作業を取り入れることで、生徒の興味関心を駆り立てた。 【次年度の課題】 ○教材研究の効率化やICTを有効活用できるように、教科内の教員で研修や教材の共有をはかるなど、教科内における情報交換の機会を増やす。 ○本校生徒の学力や興味関心にあった演示実験及び生徒実験を増やせるように探求を重ねる。 ○実験に関わる薬品及び材料等の補充を定期的に行うなど、実験回数を増やせるように整備する。
		受け身ではなく、能動的な授業参加を促す。	生徒と教員及び生徒間のコミュニケーションを重視した授業を通して、生徒の発表機会を増やして自己肯定感を高めながら、理科に対する苦手意識を少しでも払拭する。	A		
		日常生活にあふれる科学的事象に対する興味・関心を高める。	ICT環境の有効活用及び、生徒実験・演示実験を適度に取り入れることで、科学全般に対する生徒の興味・関心を高める授業展開に努める。	B		
		物理実験室・化学実験室を整備し、他教科も含めた授業での有効活用を促す。	計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・演習・映像教材視聴等の様々な形態の授業を取り入れる。他教科にも積極的に開放し、学校全体として有効利用を促す。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。	B	B	【達成状況】 体育 ○体力テストA及びBの割合は44.5%と目標の50%を達成することができなかった。 ○卒業課題については補習等を行い、目標を概ね達成することができた。 ○実技研修として指導の仕方など適宜話し合いや共通理解を図った。 保健 ○各授業において身近なニュースを取り上げながら授業展開を図った。生徒の興味を引き、具体的に内容を理解し、思考・判断することに繋がったと感じる。
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率75%以上を目指す。	B		
		体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。	A		
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	B		
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	ICTを活用して話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	B		【次年度の課題】 ○体力テストのA及びBの割合のボーダーを50%として、体づくりや持久走などの授業を通して体力を高める運動を取り入れたい。 ○体育館にWi-Fiをつなげてもらったので、体育館で行う種目でICTの活用を進めていきたい。
	英語	基礎学力の向上	I C T機器を効果的に用いて、生徒の活動時間を増やし、知識の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。	A	B	【達成状況】 ○ICT機器を効果的に用いて、一方的な講義形式の授業にならないよう生徒の活動を重視した。 ○単元テストや課題の提出をこまめに行ったが、欠席等が多く徹底するのが難しかった。 ○授業において継続的な指導を行ったが、全商英検3級合格者は1年生で43%、全体では1級合格者は3名、2級合格者は0名であった。 ○A L Tとの授業は、生徒の取り組み状況は良かったが、リスニング・スピーキング能力の著しい向上までは見られなかった。 ○ペアワークやグループワークを多く取り入れ、対話的なやりとりのコミュニケーション活動ができた。
			単元ごとに評価問題等で知識の定着を確認し、課題を提出させることで、理解不足の生徒に対する継続的な指導に努める。	B		
		資格取得	1年生は全商英検3級合格者50%を目標に、上位の級の合格者も出るよう授業・課外等で効率的な指導に努める。情報ビジネス科の生徒には2級への積極的な取り組みを促す。	B		
		実践的コミュニケーション能力の向上	A L Tとのティームティーチングを存分に活用し、主体的にコミュニケーションをすることで、リスニング・スピーキング能力を高める。	B		
			ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通じて自らの考えを深めながら、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。	B		
	家庭	主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技術を習得する	I C T機器を効果的に活用し、具体的にわかりやすい授業を展開する。	B	B	【達成状況】 ○書画カメラや電子黒板を、図表の説明や生徒の発表に活用することができた。 ○学習ノート等の提出物は単元ごとに点検し、未提出がないように指導することができた。 ○きゅうりの半月切りや厚焼き卵の実技テストを実施することで、基礎的な技能を定着することができた。 ○安全・衛生面に十分配慮しながら、調理実習をすることができ、生徒も積極的に取り組んでいた。 ○ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活に関心を持たせ、主体的に生活の改善・向上に取り組もうとする姿が約8割の生徒に見られた。
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。	B		
			実験・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。	A		
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。	B		【次年度への課題】 ○I C T機器を効果的に活用した授業の実施 ○無気力な生徒への指導の工夫
	商業	学力・指導力の向上を図る。	生徒一人一人の実態を把握し、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指し、知識の定着を図る。また、探究的活動を通してビジネスに関する課題を発見し、創造的に解決する力を育成する。	A	B	【達成状況】 ○「会計」における習熟度別クラスの編成や、I C T機器を利用した基礎基本を重視した丁寧な指導をとおして「わかる」「できる」生徒が増えている。 ○地域との連携した活動が継続できている。出前授業は5校の実施であった。 ○各科目の中で、対話的・協働的な活動によりコミュニケーション能力を身に付ける機会が増えて来ている。
			I C T機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。	B		
		商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。	B		
		ビジネスにおける実践力の育成を図る。	商業を学ぶ中で、ビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける。ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成し、キャリア教育につなげる。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題			
教 務 務		各教員間や各教科間におけるＩＣＴ機器活用度合いのばらつきを解消するためにより一層技術向上を図り、授業中のタブレット使用頻度を増加させ、ＧＩＧＡハイスクール構想の実現を目指す。	全ての教科でタブレットをどの場面で活用すると有効なのかを明確にした上で、生徒のタブレット使用頻度を積極的に高める。	B	B	【達成状況】 ○いまだ教科や職員により差はあるが、多くの職員がGoogleclassroomをととして課題の配付や単元テストを実施したり、評価を行うなど着実に使用頻度は向上していると感じる。 ○「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入については、評価規準に対する考え方や、定期考査を重視する考え方や従来の評価の方法から脱却できない職員も多く、また生徒や保護者へも浸透しきれておらず、目標を十分に達成したとは言えない。 ○「基礎力診断テスト」の結果を分析すると、以前からではあるが１学年から２学年にかけては基礎学力の向上には見られるのだが、進路を決定する２学年から３学年にかけて学力の向上が停滞する傾向にある。また学校生活アンケートの結果によれば、家庭学習の習慣がある生徒も相変わらず少ない。 ○定期考査の実施回数を見直すなどして授業時間の確保に努めた。 ○授業振替を積極的に行ったが、今年度に関しては自習にせざるを得ない状況も発生し、教務の係は授業填補に苦労した。学級減により職員数が減少しているので、急な年休などへの対応で先生方に負担を強いてしまった。 ○答案の取り扱いについて検討、答案取扱規定を作成し、教務ロッカーに施錠をして保管するなど、適切に管理することができた。 ○学校行事やその他のイベントなどの迅速な情報の公開に努めた結果、昨年と比較すると多くの情報と本校の取組を積極的に発信することができたが、閲覧数にさほど変化はなかった。			
		「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用。	相互授業参観を通してＩＣＴ機器利用技術およびタブレット活用の情報を職員で共有し、利用技術の向上と活用頻度を高める。	B					
		基礎学力の低い生徒への支援を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	昨年度の「単元別指導と評価の計画」による観点別評価を検証し、それ踏まえて改善をおこない運用する。	B					
		生徒の個別最適な学習の支援および実現	「基礎力診断テスト」を有効活用し、基礎学力の向上を目指す。また、各学年においては積極的に朝ドリル等の機会を設け、あらゆる場面で学習習慣が定着できるよう促し、学業不振による転退学者の減少に努める。	B					
		授業時間の確保に努める。	学校行事の計画を考慮しながら、行事の内容を吟味したり精選する事により、必要な時期に必要な授業時間が十分確保できるよう努める。	A					
		情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を適正に管理する。	A					
		H Pの適正な運営と教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成とそれに沿った活動を活性化させ、「開かれた学校」の理念のもと募集定員確保に向けた迅速な情報の公開を心がけ、本校教育活動のPRをする。	B					
		校 務 分 掌		挨拶の活性化及び時間厳守に努める。		登校時の昇降口及び廊下等での挨拶を教職員全体で積極的に促す。また、時間厳守の大切さを様々な場面で伝え続け、登校時や授業開始の遅刻者数を減らす。	B	B	【達成状況】 ○ここ数年、規範意識の高い生徒の割合が増えており、今年度も一部の生徒を除き、概ね生徒は落ち着いた生活を送っていることから、学校全体としての秩序は保たれている。 ○校則や教員の指導に対する生徒からの不満等は多少あるものの、生徒指導における学年間の格差は少しずつ解消されてきており、学校統一の基準で指導しようという意識をもった教員の割合が増えてきたように思われる。 ○月１回の頭髮服装指導に加えて、「服装指導票」が有効に活用されはじめ、日頃の身だしなみは改善がみられたと思うが、累積指導等において、学年やクラス間でかなりの差が生じていると感じた。
校則の遵守及びマナーある行動を促す。	月１回の頭髮服装指導に加えて、「服装指導票」を有効に活用しながら、日頃から就職試験等に対応できる身だしなみを定着させる。また、マナーある行動を促しながら、他人を思いやる心を育む。			B					
ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、道徳の時間、ホームルーム等を通して、SNSの使い方、インターネットに潜む危険を指導し、ネット上のトラブルを未然に防ぐ。			B					
交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ。	自転車点検、交通安全講話、バイク実技講習会等を実施すると共に、校外立哨指導やH R等で日頃から交通安全に関する注意喚起をし、危険が伴う「ながら運転」などをなくし、交通事故件数を減らす。			B					
教職員間の情報交換を密にして、問題行動を未然に防ぐ。	職員の学年内外の風通しをよくして、生徒間のトラブルや問題行動が起きないように素早く対処する。また、盗難事件や問題行動が起こってしまった場合には、個ではなく、組織的に迅速に対応する。			A					
教育相談活動を充実させる。	年４回の面談（２回は担任及び副担任との二者面談、２回は保護者面談）に加えて、S Cによる生徒、教員、保護者へのカウンセリングの場を用意し、生徒が一人で悩み等を抱えこまない環境を作る。			A					
特 別 活 動				生徒会・H R活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	A	B		【達成状況】 ○学校行事全体に関してICTを活用し、効率的・能率的な運営が行えた。 ○学校行事等は、競技内容を球技中心へ再編成し、職員の負担軽減に努めた。夏の野球応援では、全校応援の形態を確立し、保護者を巻き込んだ一体感のある応援が実現できた。文化的行事では、機知に富んだ実行委員および生徒会役員企画、クラスのステージ発表を実施し、主体性や責任感の育成に努めた。また、キッチンカーを依頼し、販売マネジメント力やマーケティングに関して学ばせた。 ○生徒会役員・各実行委員が活躍し、生徒の力が生かされた行事運営ができた。また、行事後の振り返り等を通して各々の生徒が生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。 ○ICTを活用し特別活動部内の意思疎通や会議数の削減を図り、行事運営や部活動への支援に尽力ができた。 ○部顧問内での繋がりを重視しコンプライアンス遵守を呼び掛けた。
				部活動の適正な運営や効率的・効果的な活性を図る。	多様化する生徒の活動ニーズに応えるため、可能な限り短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な指導を行い、部活動以外の様々な活動にも参加できるよう対策を講じる。	A			
			医・科学的観点を最優先に考慮し、適切な活動計画に基づいて指導する。	B					
		学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	各ホームルーム役員等を中心に話合いの機会を設け、考え、判断し、必要なことを決定していくなど、活動を活性化させることで、主体的な学校行事の参加を促す。	B					
		生徒会活動を通してキャリアパスポートを支援する。	多くの行事を通して、自ら企画立案し、振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。	A	【次年度への課題】 ○学校行事等とおし、主体性を高めマネジメント能力の向上育成に努める必要がある。 ○学校行事内容の精選等、日程および準備期間等を検討する必要がある。 ○施錠の徹底を図るために、部活動内の意思疎通および責任意識を高める必要がある。 ○部活動の精査、顧問編成の検討が必要である。				

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
校務分掌	進路指導	進路について理解を深めさせ、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	進路ガイダンスの時期・内容を検討し、学年との連携を図りながら実施に努める。	C	B	【達成状況】 ○求人票Web閲覧システムの運用 ○履歴書の電子データ化 ○進路・資料室の整備 【次年度への課題】 ○進路ガイダンスの実施にあたり、進路指導部（各学年の進路担当）が主体的に計画 ○インターンシップの実施時期を検討 ○進路資料室の生徒利用促進
			上級学校のオープンキャンパスや企業見学会への参加を促し、進路選択のミスマッチを防ぐように努める。	B		
			「進路の手引き」を発行し、進路希望の実現に活用させる。	B		
		進路の情報提供を充実させる。	企業、ハローワーク、上級学校との連絡を密にし、ICTを活用しながら生徒に的確な情報を提供する。	A		
		進路資料室の効果的活用を目指す。	生徒・職員・保護者への情報提供の仕方を工夫し、閲覧資料の整理に努める。	B		
	環境整備	清潔で安全な学習環境を目指す姿勢を育てる。	環境美化活動を通して、生徒の美化意識の向上に努める。	B	B	【達成状況】 ○ワックス塗布やモップ交換は、学年ごとに仕事を分担することで効率的に実施できた。 ○文化祭等の行事後の清掃等積極的に活動することができた。 ○天候の関係もあり委員会としての活動回数が少なくなってしまった。 【次年度の課題】 ○委員会活動を通して生徒の自発的な活動をより促す。 ○さらに学習環境の整備を進める。 ○危険箇所の修正・改善等をより進めていく。
			清潔で安全な学習環境になるよう、感染症などへの継続的な活動を心がける。	B		
			清掃道具を速やかに補充し、生徒自らが意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。	B		
		環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	生徒が、環境美化への自主的な取り組みができるよう委員会活動などを通して働きかける。	B		
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	衛生管理の向上を図り、感染症等の予防対策に努める。	B	B	【達成状況】 ○新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、新たな予防対策指示について迅速に対応した。 ○各種健康診断、各種環境検査を実施した。 ○外部講師を招いた性教育講演会（10月）を実施した。 ○防災避難訓練を実施した。結城市消防署の指導のもと消火訓練も実施した。 結城市防災安全課の指導のもと、学校避難確保計画書及びチェックリストの策定。 防災ハンドブックの配布。 ○保健室運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等、十分に対応できた。 ○カーテンのクリーニング、購買、出欠報告など係を設け実施した。 【次年度への課題】 ○地域の災害リスクを踏まえた防災教育、訓練の実施。 ○学校危機管理マニュアルの定期的見直し。 ○保健室利用に関するルールの確認。
			諸検診の効果的な実施に努める。保健室の効果的な運営に努める。	A		
			外部講師を招いた性に関する講演会を実施する。	A		
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。	B		
		学習環境を整備する。	冷暖房中の適切な室温管理、換気の励行。生徒の学習活動においての健康・安全管理に努める。	B		
			水質検査および室内環境検査等を実施する。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
学 年	一 学 年	時間厳守の徹底	適切な起床・就寝時間等基本的生活習慣を確立し、時間の大切さを意識させ、学校生活において時間に遅れず行動することを習慣化する。	B	B	【達成状況】 ○入学後時間が経過するにつれて、特定の生徒の遅刻が増加している。大半の生徒は学校生活の中で時間を守って行動しているが、極少数の生徒が授業に平気で遅刻しており、指導に苦慮している。 ○大半の生徒がしっかりと挨拶することができた。若鮎祭や鬼朋祭等の学校行事を通して、生徒同士のコミュニケーションが深まった。 ○1月26日現在で特別指導5件。指導に大変苦勞する件があった。大半の生徒は規範意識を持ち、学校のルールを守って生活している。 ○大半の生徒は真面目に学習に取り組んでいるが、自ら主体的に学習に取り組んでいる生徒は少数である。 ○探求「きぬたん」はコーディネーターの多大な尽力により、一定の成果を残すことができた。
		コミュニケーション能力の育成	挨拶を励行し、学校行事等を通して生徒同士のコミュニケーションを密にするとともに、相手の気持ちを考えて行動する共感力を育成する。	A		
		規範の順守	本校のルールを理解し、守る大切さを指導する。また、誠実で信頼される人物像を目指し、社会規範意識の向上に努めていく。	B		
		主体的に学習する態度を育む	授業に意欲的に取り組み、自ら考える姿勢を身に付けさせる。また目標を持って検定試験に臨み、多くの資格を取得できるよう援助する。	B		
		進路意識の醸成	LHRや進路行事を通して、必要な情報を提示し、将来を見据えた目標を設定させる。	A		
	二 学 年	集団生活における基本的生活習慣とマナーの確立	挨拶と時間厳守を習慣化させ、集団生活において守るべきマナーをふまえた行動を促す。	B	B	【達成状況】 ○挨拶はほとんどの生徒が習慣化できている。集団生活におけるマナーも概ね守られており、常識を逸脱するような行動はほとんど見られなかったが、細かい部分ではさらに指導が必要。 ○一部の生徒を除き、言語によるコミュニケーション活動に努めている姿が見られた。 ○学校行事等へは積極的に参加する生徒が多かったが、主体的に活動するところまではいかなかった。 ○授業などを乱す生徒はいなかったが、自分たちで自主的に学習し、互いに向上しようという雰囲気はあまり感じられなかった。 ○進路ガイダンスでは、積極的に講師の先生方に質問するなど、卒業後の進路に対して真剣に考えている様子うかがえた。
		コミュニケーション能力の育成	自分の考えや意見を相手に言語で適切に伝え、相手の話にも耳を傾けられるような姿勢を育てる。	A		
		学校行事への主体的な参加と、リーダー資質の養成	学校行事等で、中心となって活動できるようリーダーシップを育成する。	B		
		資格取得に向けた効率的な学習の定着	習熟度別学習などをふまえ、生徒が授業で互いに質問したり、教えあったりできる環境を作る。	B		
		適性に合った進路実現への準備	進路ガイダンスやインターンシップを通して、卒業後の進路について具体的なイメージが持てるよう支援する。	A		
	三 学 年	生徒の進路実現に向けて、支援を行う。	生徒が進路を適切に決定できるよう、適切な進路行事を計画・立案し、学年職員全員で支援する。	A	B	【達成状況】 ○大部分の生徒は挨拶・言葉遣い・時間厳守などの基本的な生活習慣が定着しおおむね目標は達成できた。 ○進学希望者については、全員が希望の進学先が決定し、就職希望者については、95%以上で内定が決定しており、進路指導部と連携をとりながら対応することができた。 ○進学者における奨学金の案内や説明は、教務部の担当職員との連携で円滑に対応できた。
			就職においては、必要に応じて保護者を含めた面談を必要回数実施し、離職率の低下につながる指導を行う。進学者においては、奨学金についての案内がきちんと保護者へ届くように教員の連携を図る。	B		
		社会人となるために必要な、知識やマナーを身に付けさせる。	各教科と連携を図り、一般常識や、最低限の知識の定着に努める。	B		
			商業科目の知識を活かし、社会で役立つITパスポートなどの国家資格や、全商簿記取得に積極的に取り組ませる工夫を行う。	B		
			HRや集会を通して、社会人として必要な礼儀作法や言葉遣いなどのマナーについて、きめ細かい指導を行う。また、他者を思いやり協調性を育む指導を日常生活を通して行う。	B		

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った